

県立施設方向性ビジョンの実態 ～もう痛ましい事件はごめんだ～

「次男が施設への入所を断られ、寝ずに面倒をみていた」

令和 6 年 7 月 4 日、痛ましい事件が千葉県で起こりました。

障がいがある息子の将来を悲観し、父親が首を絞めて殺したという記事です。父親は逮捕されたあとの警察の調べに対し「次男の将来を悲観していた」などと供述していて、さらにその後の調べに対し「次男が施設への入所を断られ、妻と 2 人で面倒を見るしかないと思っていた。毎日のように寝ずに面倒をみていた」と供述したそうです。

家族は神奈川県内の施設に次男の入所が断られたのを機に、事件の 1 か月余り前に長生村に転居してきていて、その後は行政などからの支援は受けていませんでした。

神奈川県障害サービス課は 7 月 29 日に記者発表を行い、支援機関とともに、転居前の生活や支援状況を振り返り、地域での生活を支えるために必要な支援について、第三者を含めて検証を行うと発表しました。

親がケアをしている障がい者は、親が亡くなった後、どこに行くのか

ここには、今、親がケアをしている障害者は、親が亡くなった後、どこに行くのかという問題があります。重度の障害者がグループホームではマンパワーが不足して受け入れられず、困ってしまうことも多くあります。医療が必要なケースは特にその傾向が強く、地域生活支援拠点事業を行なっている各市町村の課題に共通して上がってきます。強度行動障害の状態にある人については、グループホームどころか、施設からも受け入れを断られるのも珍しい話ではありません。

「待機障害者」

NHK「おはよう日本」で、7 月 9 日～7 月 11 日に「待機障害者」という3 回シリーズの特集がありました。全国の市町村や都道府県にアンケート調査した結果、入所施設やグループホームの待機者が約22,000人、県外利用が約7,700人、180日を超えた短期入所利用継続が約1,300人という実態が明らかにされていました。市町村の回答率は約40%なのに、この数字です。なお、このアンケートに対し、神奈川県の返答は「入所施設等の待機者を把握していない。市町村が NHK にどのような回答をしたのかも把握していない」と回答したそうです。

地域包括ケアシステムにむけた関係機関からの意見

神奈川県の障害福祉施策は、令和3年度に検討された「当事者目線の障がい福祉に係る将来展望検討委員会」で様々な議論をされています。この中で公立施設については、「公立施設は地域支援システムの構築を阻むことや、今後公的でない領域が大事であり、地域づくりを広く考えていく必要がある」とされ、地域支援システムの構築を阻むとされています。

地域包括ケアシステムの実現のためには、いつでも、どこでも、誰でもが費用の心配なく、国の責任で必要なサービスを受けられるようなシステムが必要です。現状の障がい福祉施策のサービス提供体制はこれを満たしているのでしょうか。

この会議の中で、関係機関からの意見は下記のようなものがありました。

- 現在地域にあるサービスが不足している。
- グループホームも職員が定着せず、現在障がい者が地域で居住する場所すらも崩壊の危機にある。
- 公立施設の強みとして、収益性に関係なく、困難ケース等少数ではあるが政策ニーズの必要性に合わせて予算を確保できれば事業を継続実施できる。
- 民間施設では、強度行動障害対策事業対象の人を殆ど受け入れることが出来ていない、人とハードへの補助が不可欠。

「当事者目線の障がい福祉に係る将来展望検討委員会」これらの意見をほぼ無視

しかし、「当事者目線の障がい福祉に係る将来展望検討委員会」では、これらの意見をほぼ無視し、「制度の持続可能性」を述べ、地域のインフォーマルサービスを開発し、できるだけ神奈川県としての公的なサービスの費用を削減しようとする報告になっています。この延長線に県立施設の将来方向性ビジョンが策定され、県立施設の独立行政法人化や指定管理者制度の廃止が進められようとしています。

今回の障害サービス課検証の中に、これらの実態調査や政策に関する振り返りは含まれていません責任を現場に押し付ける姿勢がありありと見て取れます。

本当に必要なサービス提供体制

残念ながら、神奈川県内でも、重度の障害がある家族を抱える世帯で、長生村と同様の事件は生じる危険性が高まっています。非公式ではありますが、県立施設でのケース受け入れ停止の影響で、そのような話をいくつか聞きます。県として、本当に必要なサービス提供体制を考えない限り、同じような事件は他にも生じるのではと危惧しています。

これ以上犠牲者を出すことがないよう、地域の現実を調査し、それに見合ったサービスの整備を求め、声をあげていきたいと考えています。

皆様もぜひこの問題についてご一考ください。(匿名での職員投稿記事)